

268) 女の夏

雨が晴れるとわたしの影の せたけ 背丈が伸びてもう秋ですね
夏の頃には小さな影が 子供のようにまとわりついた
季節はいつもせっかちなのね わたしの愛を待ってくれない
女の夏は短くて ためらったら逃げてゆく
だから両手でしっかりと しっかりと抱いていて

風が騒いでハイビスカスの 花が落ちるともう秋ですね
夏の盛りにふたりで燃えた あかし 愛の証が見つからなくて
すぎた季節は帰らないから 明日咲く花さがしにゆくの
女の夏は短くて ためらったら逃げてゆく
だから両手でしっかりと しっかりと抱いていて

カレンダーから夏のページを 破り捨てるのもう秋ですね
あなたの愛とわたしの夢を 重ねてみるとどこかが違う
いくさいげつ 幾歳月を一緒に過ごし ひとつの愛をつらぬけないの
女の夏は短くて ためらったら逃げてゆく
だから両手でしっかりと しっかりと抱いていて

入道雲から いわし 鯛雲へと 空が変わってもう秋ですね
あなたの夏を追いかけたけれど 平凡こそが倖せみたい
海に漂うカモメのように 潮の流れに まか 委せてみるわ
女の夏は短くて ためらったら逃げてゆく
だから両手でしっかりと しっかりと抱いていて